

さつきやま魂

崎山中学校だより
4月10日 第1号
文責 校長 山下



令和2年度スタート!

第1学期始業式から

長崎県でも新型コロナウイルス感染者が増え、臨時休業がどうなるのか心配されましたが、全校生徒出席のもと、令和2年度をスタートすることができました。6日の始業式では、次のような話(抜粋)をしました。「今年の崎中のキーワードは『主体性』と『連携・協働』目標達成のためには、協力して物事を行ったり、力を合わせて働くことが重要。『さつきやま魂の誇りを胸に、ふるさとに貢献する青年』という目標達成のために、『連携・協働』し、『主体的』に行動することを期待します。」学年を代表して、新二年生の入江詠輔君、新三年生の山内三四郎君が新年度の抱負を発表しました。二人とも夢の実現に向けて、勉強はもちろん、あいさつや積極的な行動など、さつきやま魂を意識した実践を目標にしていました。先輩としての強い決意を感じるとともに、いろいろな活動における頑張りも期待される発表でした。



入学おめでとうございます

7日は入学式を行いました。今年の新入生は13名です。在校生を代表して生徒会長の境脇愛十君が心温まる歓迎の言葉を、新入生を代表して、境脇美波さんが誓いの言葉を述べました。その一部を紹介いたします。



誓いの言葉(抜粋)

「・・・(中略)・・・小学校と異なる授業や行事に対する不安の反面、憧れの先輩方とともに生活できることをとても楽しみにしています。私は、『部活動を頑張りたい』という目標をもって中学校生活を送りたいと考えています。しかし、これからの中学校生活で分からないことが多く、迷うことがあるかもしれません。何事にも努力して取り組んでいきますので、優しく、時には厳しく教えてください。・・・」

目標に対する強い意志を感じるすばらしい誓いの言葉でした。新入生一人ひとりの背筋を伸ばした返事に

も、「中学校で頑張ろう」というやる気を感じました。

私からは、辞の中で、小学生と中学生の違いについて、中学生は、「主体性」が必要で、主体的な行動により、自分自身を成長させ、自分の道を切り開いていくことができることを話しました。さつきやま魂を持つ13名の新入生が、中学校でさらに進化し、学校教育目標でもある「さつきやま魂を誇りを胸に、ふるさと崎山に貢献する青年」に育つことを願っています。

新入生の保護者の皆様、今後ともよろしく願います。

「鬼滅の刃」から先生が気持ちよく描かれた傑作です。



転入職員紹介

始業式に先立ち、転入職員の着任式を行いました。崎中に勤務することになった六名の先生の着任式を行いました。里中知矢君が、気持ちのこもった歓迎の言葉を述べられました。



- 転入職員
- 教諭 松岡孝之(理科) 奥浦中
- 教諭 明石佳之(社会) 嵯峨島中
- 教諭 宮前晃由美(国語) 福江中
- 新規採用職員
- 教諭 貞方元汰(保健体育)
- 養護教諭 藤原佳穂
- 校務員 家永真市
- 富江中からの兼務職員
- 教諭 有川和子(家庭科)
- 非常勤講師
- 講師 常喜由理子(美術科)

「チームさつきやま」で、「連携・協働」し一生懸命頑張ります。よろしく願います。

【ご挨拶】

崎山中勤務二年目となりました校長の山下敏成です。スポーツ観戦、映画鑑賞が好きです。現在、コロナウイルス感染症予防のため、映画館に行くことができないのが残念です。「さつきやま魂」に誇りを持ち、その実践と継承をパワーアップしたいと思います。よろしく願います。